

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名	富士市立高等学校	校長名	櫻井 祥行
-----	----------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生活習慣の確立	各学年、学期ごと朝読書に1度も遅刻しない生徒数85%以上	2学期末まで 1年生 1学期 89.6% 2学期 91.6% 2年生 1学期 76.8% 2学期 87.3% 3年生 1学期 78.6% 2学期 83.2%	生徒 保健環境 学年 B	朝読書は、生徒にとって重要な学習活動である。生活習慣を身に付けさせるためにも継続して丁寧に取り組ませていくことが求められる。
ア	学校の安全安心	朝の交通街頭指導（年間150回以上）、自転車事故件数（昨年度より減）	交通指導カード R6 118件-R7 94件（11月末） 自転車事故 R6 20件-R7 15件（12月末）	生徒 B	交通街頭指導に関しては教員にも毎朝各3か所で指導していただき、数値は減少し始めた。自転車事故に関しては自損事故が多い。大きな事故にはつながっていないが、継続的な指導を行っていく。
		情報交換会を毎週1回実施	17回 （1月20日現在）	教育相談 A	教頭、学年主任、養護教諭、SC、教育相談課との初期段階での情報共有をもとに、専門職を交えた「チーム学校」での相談対応を実施することができた。
		学年別に実施する保健講座後の意識向上率20%	1年生 26.7%向上 2年生 27.7%向上 3年生 37.0%向上	保健環境 教育相談 A	保健講座の内容については、生徒の実態を見ながら検討していく。
		「学校に困ったことや悩み事を相談できる人がいる」生徒 85%	1年生 89.3 % 2年生 93.0 % 3年生 96.3 %	教育相談 A	相談室では、1年生 19人（35回）2年生 11人（24回）3年生 10人（28回）保護者 8人（29回）合計 48人（116回）のSCによるカウンセリングを実施した。
		・いじめを理由とする不登校、転退学者ゼロ ・体罰ゼロ	・いじめを理由とする不登校転退学者数 0人 ・体罰 0件	教頭 教務 教育相談 A	スクールカウンセラーが同席した情報交換会を毎回実施し、相談に対して迅速に丁寧に対応した。また、外部機関と連携し生徒支援を行った。

様式第3号

		面接週間を年2回以上実施	4月、9月に実施	教育相談 A	担任と連携し、初期段階での相談や特別支援に関する支援計画に役立てることができた。
ア	職員の健康増進	週3回午後8時以降に残留する職員の減少	令和7年度 89.8% 令和6年度 84.7% 令和5年度 82.3%	管理職 A	担任、副担任とも昨年度よりも減少した。業務全体の見直しと効率化をさらに進める必要がある。
ア	学校未来プロジェクトの推進	「学校行事・部活動に満足している」生徒90%	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事 94.9% (1年91.8%, 2年96.0%, 3年96.8%) +0.1% 部活動 90.0% (1年87.7%, 2年92.4%, 3年89.8%) +1.6% 	教頭 生徒 学科 学年 部活動活性化 A	学校行事については、生徒主体の活動が定着しており、満足度は昨年度とほぼ同程度で、特に2年生で上昇が見られた。部活動については、数値がやや上昇し、満足度も高い。任意化に伴い、生徒の変化を踏まえつつ、在り方や運営方法等検討していく。
		海外探究研修の充実(生徒の満足度80%)	総合探究科 96.5% ビジネス探究科 100% スポーツ探究科 95.0%	学科 学年 A	ほとんどの生徒が参加することができ、また各学科の目標に応じた取り組みができた。
イ	生徒の自主性・協調性及び目標に向かって挑戦する意欲と態度を育む	「自分の将来に対する、はっきりとした夢や希望を持っている」3年生80%	令和7年度 89.2% 令和6年度 89.1% 令和5年度 87.1%	キャリア 学科 学年 A	学年が上がるにつれ、数値も高くなっている。授業、究タイム、進路学習等で、将来について考えるようになった。
		「学校での学びをきっかけに、さらに学びたいと思う」生徒60%	生徒アンケート結果 1年79.9% 2年82.3% 3年89.8%	企画研究 学科 学年 A	授業の内容や質、教員の関わり、学習環境がうまく機能して、学校での学びが生徒の学習に対する内発的動機付けとなった。
		2年生進路未決定者20%以下	約9%(1月進路希望調査)	学年 キャリア A	学年で行った進路啓発などにより自身の進路について自分事として考えるようになった。
		3年生進学希望者向け集会を1、2学期に1回以上実施	1学期1回 2学期1回	学年 キャリア A	各学期に1回ずつ実施した。学年集会などでも進路を意識する機会を複数回設定できた。

様式第3号

イ	高い志のもと進路実現のための進路啓発及び実績の向上	1年生への進路啓発行事年2回以上	令和7年度 73.4% 令和6年度 81.2% 令和5年度 75.5% (満足度)	キャリア 学科 学年 A	土曜学習を活用し、自学自習の前に進路啓発を行った。
		進学(四大100人以上)及び就職内定率(100%)	12月末現在 就職 27人 合格数 国立2人 私立93人 短大10人 専門54人	キャリア 学年 B	入試が複雑化かつ進路が多様化する中で、個別指導の充実を図り、学校全体で進路実現をバックアップする。
		検定を3科目以上合格して卒業する生徒70%	R6 72.7% R7 73.4% (1.19現在)	商業科 A	検定受験を推奨したことで、上位級への挑戦を含め、検定に挑戦する生徒が増加した。
		英語資格・検定試験の準2級以上の受験者100人、合格率40%	英検準2級以上の受験者:170名(3回目受験予定を含む) 合格率 34/97人 (35.1%:2回目まで)	英語科 B	授業を通して英検取得への意識を高め、受験者数は増加し、準2級以上の合格率も向上した。
ウ	学習習慣の確立	週に5日以上、家で勉強している生徒60%	学校評価アンケート 1年32.4%、2年35.4% 3年42.0%、平均36.6% (前年比33.9%)	教務 学年 教科 C	課題等に取り組む態度が、主体的に学習に向かう姿勢へと十分に高まっていない点に課題を感じる。
		平均90分以上家庭学習を行う生徒、各学年50%以上	学習時間調査 1年22.3%、2年27.0%、 3年2.7%	教務 学年 教科 C	定期テスト直前(1週間前)になると学習する生徒は多いが、平均90分以上の学習を習慣化させることが難しい。
ウ	魅力ある授業実践と授業力向上	80%以上の生徒が「授業に満足している」と答えた教員80%以上	生徒授業アンケートの結果 94.7% R6 98.9% R5 90.0% R4 91.3% R3 97.0%	企画研究 教務 教科 A	授業内容・教員の指導・学習環境・クラス経営など、複数の要素がバランスよく機能している可能性が高い。特定の教科だけでなく、学校全体の授業力が安定していると考えられる。
		新教育課程の見直し	令和7年度入学生および令和8年度入学生の教育課程変更手続きが完了した	教務 A	5月から9月にかけて計5回の検討委員会を開催し、各教科・学年・学科・分掌の意見を共有・集約した。その結果、探究学習を一層推進することを可能とする、令和7年度入学生および令和8年度入学生の教育課程を修正・決定した。
		新観点別評価の総括	年間を通して各教科で適切に実施した	教務 A	今年度から観点別評価に関する内規が変更され、場面に応じた柔軟な評価と指導を実施できるようになった。

様式第3号

		「課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる」生徒 75%	生徒アンケートの結果 81% R6 84.0% R5 84.9% R4 83.2% R3 78.5% R2 85.0%	企画研究 指導主事 学年 教科 A	探究学習において、「論理的な道筋の予測」はディベート、「課題解決のための計画」は市役所プランで主に扱っている。毎年、目標を達成できている。
		探究学習（「ディベート」「市役所プラン」「自分スピーチ」及び教科「探究」）の充実	毎週行われる会議で授業内容を見直した。授業や学外での活動成果を FujiQuest（探究学習発表会）や外部の発表会などで発表した。	企画研究 指導主事 学年 教科 A	多くの生徒が課題を見つけ、情報を収集してまとめるスキルを身に付け、主体的に探究学習に取り組むことができた。また、究タイムの活動については、いくつかの提案が地域の現実の取り組みとして実現した。
エ	家庭・PTA組織・中学校・地域との連携	P T A後援会合同総会・懇談会の出席率 40%	今年度も総会、学科別説明会、懇談会を同日で開催した。総会は約 21%（昨年 24%）、学科別説明会 34%（昨年 35%）、懇談会 53%（昨年 35%）の出席率だった。	総務 B	平日開催で共働きの保護者も多く出席が難しいと思われるが、クラス別懇談会では半数以上の保護者が参加し、昨年より大幅に改善された。特に1年生の参加率が高く、学年が上がるにつれて下がった。これは、学校行事や三者面談等で保護者が来校する機会も確保されていることが要因の一つと考えられる。出席できない保護者にも確実に資料が渡るよう、Cラーニングを活用し、業務の軽減・ペーパーレス可を推進できた。
		「本校が地域に開かれた学校とを感じる」保護者 85%	学校評価アンケート 88.5% (前年比+1.2%)	教頭 地域交流 総務 A	地域交流活動を積極的に行い、その都度活動内容について学校 HP に掲載した。
		各部活動および本校生徒参加のボランティア活動など、地域交流の実績は年間 100 回以上。	① 多世代交流サッカー 11 回実施 ② 人工芝で遊ぼう 2 回実施 ③ 学校 De 学ぼう（富士市社会教育課と共催）1 回実施 ④ 部活動を含む地域交流事業 82 回実施 ※4月から12月までの実施分をカウント	地域交流 A	①地域住民参加者述べ 411 名 本校生徒 10 名 ②参加園児・一般未就学児、合わせて 110 名 本校生徒 117 名 ③参加小学生 13 名 本校生徒 42 名 ④本校参加生徒述べ 1477 名 ※4月から12月までの実施分をカウント
		「学校運営協議会の提言が学校運営に反映されている」と回答する委員 90%	協議会后に委員アンケートを実施する。 88.9%	副校長 指導主事 B	学校運営協議会での議論を踏まえた教育活動の改善を心がけている。

様式第3号

		HP更新週5回以上	週8.2回、ほぼ毎日、授業、行事、部活動の活動、様子等を投稿した。	教頭 情報図書 各部活動 B	12月末までに323件の投稿を行ったものの、HPのアクセス数は82,812件(前年より9,369件減)にとどまった。今後は、より積極的な投稿促進によりアクセス数の増加を図りたい。
		学校見学会に参加した中学生の満足度90%以上	中学生満足度96%(前年比+1%)	教頭 A	10回の学校見学会を開催し中学生153人(-22)が参加した。土曜開催(2回)の参加数が増加し、生徒会生徒の校内案内が好評であった。施設、探究学習、海外研修への関心が非常に高い。
		中学生への説明会での若手教員及び生徒の活用	中学校13校(今後の予定も含む)で実施された進路説明会や探究指導に11人の若手教員が向ういて説明を行った。	副校長 A	管理職による学校説明を行っている高校が多い中、本校は若手の教員による学校紹介を行った。探究の学習を中心に説明をして、中学生や保護者の印象に残る説明会となった。
		体育館・グラウンドの一般開放年間200日以上	4~12月 体育館：195日 グラウンド：224日	事務 A	人工芝改修工事のため、グラウンドの開放日数は前年度より減となっている。
		庭球場の一般開放年間180日以上	4~12月 庭球場：247日	事務 A	通年で開放できた。
オ	適正な事務の執行	消防設備点検・建築物定期点検による指摘箇所の改善100%(既存不適格を除く)	・消防設備点検 指摘10箇所→対応済8箇所 ・建築物定期点検 指摘7箇所→対応済又は対応中6箇所	事務 B	指摘箇所は今年度新たに確認されたものであり、重要度と緊急性を考慮して優先順位を付け、予算の範囲内で対応を進めている。
		年間電気使用量を令和5年度比-40%削減	4~12月：377,475kwh 令和5年度(ESCO事業前)比-142,704kwh(-27.4%)の減 ※5年度520,179Kwh 6年度387,591kwh	事務 B	猛暑の影響もあり、目標の削減率には届いていないものの、ESCO事業の効果により削減は図れている。
		コピー機の利用枚数を前年度比減	A4換算で 4~12月：1,298,375枚 前年度-26,625枚 ※6年度：1,325,000枚	事務 A	更なる削減ができています。